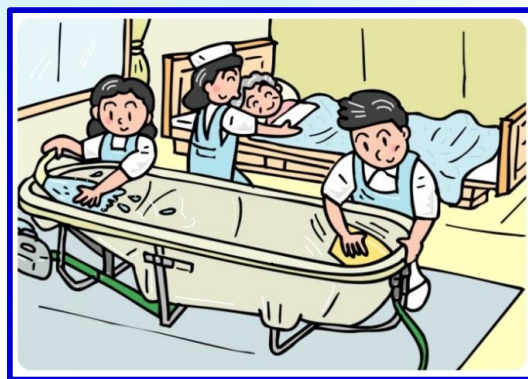
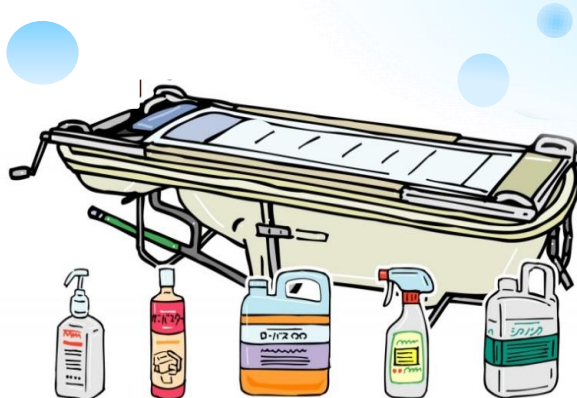


訪問入浴介護における感染予防策

浴槽、物品は毎回洗浄・消毒!!

タンカネットはご利用者様ごとに新しいものに交換するか、その都度、洗浄・消毒し常に清潔なものを使用します。



帰社後、洗濯・消毒の実施

・使用したタンカネット、衣類、雑巾などの洗濯・消毒を行います。
※必要に応じて熱湯で消毒する場合があります。



手洗い・うがい

・サービス開始前は、外から微生物を持ち込まないために、訪問直前に手洗い、消毒を行います。



物品の準備・処理

・医療措置を行っている部分に使用する物品などは極めて感染を起こしやすいため、使い捨て手袋を使用します。
・衣類などは必要に応じて、ゴミ袋で密封して持ち帰ります。



記録の徹底

・ご利用者様の症状、部位、程度などは毎回記録を残します。
・次回の継続観察の必要があれば書き添えて申し送りをします。



Dr.テベロの

お風呂豆知識



風邪の症状が出た際のお風呂の注意点!!訪問入浴介護では最大限の配慮が可能です!!

肌寒い日が続くと、どうしても風邪をひきやすくなります。風邪といえば、古くより入浴と風邪は相容れないものとして表現されることが多いように思います。

「湯冷めして風邪をひいた」「今日は風邪気味だからお風呂は控えておこう」等、皆様もこのようなことを耳にしたことがあるのではないのでしょうか。まるで入浴が風邪を誘発するのではないかという物言いです。ですがこれには**何の根拠もありません**。

まず、何故人は風邪をひくかを考えてみましょう。

人間が感染症等を発症するには、まず、病原菌(寄生体)が人間(宿主)の身体の中に入り込む必要があります。そして、人間の体内の免疫力が、寄生体に負けてしまった時、人は初めて感染症を発症します。人は暑い、寒いで風邪を引くわけではありません。

訪問入浴介護のご利用者様やご家族からも、風邪を引いてしまうことを心配して入浴を敬遠されることがあるかもしれません。しかし、日本人は古くより暖房器具の代わりに入浴で身体を温めてきたように、寒くて冷えた体を温めるには入浴は最適です。

それでも、**洗身方法には注意が必要です**。それは体をゴシゴシ洗うことです。

右の図は、人間の皮膚の断面を表したものです。四角く括られた「浴水」という文字の下に、「自然保湿物質」と「細胞間脂質」という2つの物質があります。「細胞間脂質」は細胞と細胞の間にある脂質で、人間の体の中に病原菌等が入り込むのを防いでくれる働きがあります。

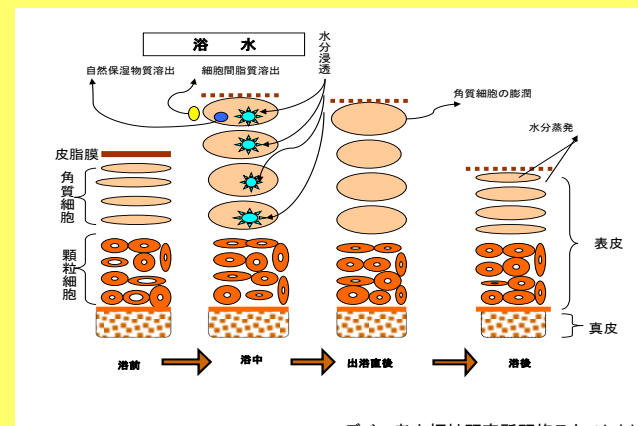
しかし、この「細胞間脂質」は、皮膚をゴシゴシ洗うことによって破壊されてしまうのです。「細胞間脂質」を失うと、体が無防備になってしまい、風邪等の病原菌が体内に入り込みやすくなります。



「細胞間脂質」を一番破壊しない洗身方法は素手で洗うことです。皆様も、顔等のデリケートな部分は素手で洗うことが多いのではないのでしょうか？素手以外で洗う場合は、なるべく柔らかい素材で洗うことをお奨めします。

ゴシゴシ洗いは、「細胞間脂質」だけでなく、「自然保湿物質」も破壊してしまいます。「自然保湿物質」は皮膚に潤いを保ってくれる物質で、失うと皮膚がかさかさになります。

洗身方法ひとつ取ってみても、身体にやさしく安全な方法というものがあります。訪問入浴介護だからこそ個別に応じた身体にやさしく安全な方法で入浴介助を実施することができます。保清だけに限らず、このようなことまで配慮して訪問入浴介護ではサービス提供を行っております。



デベロ老人福祉研究所研修テキストより

訪問入浴介護へのお問い合わせはこちらまで

【発行日】平成26年10月1日【監修】**デベロ老人福祉研究所**